

1 主題名 コミュニケーションの原点を見つめて
内容項目B－(9) 相互理解、寛容

2 教材名 「心にしみこむ“言葉”の力 ー池上 彰ー」 (「新しい道徳3」東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) 教材観

本教材は、メディアで活躍している池上彰さんが、報道記者として経験してきたことに基づき「伝える」ことの難しさや大切さについて気付かせる教材である。「よき伝え手とは、よき聞き手である」という考えのもとで、コミュニケーションにおいて相手の話をよく聞くことの大切さについて述べている。本教材を通して、相手の話をよく聞き、相手の気持ちを理解しながら自分の考えを伝えることで、よりよい人間関係が築けるようになることに気付かせていきたい。

(2) 学園生の実態

実態調査 (*月*日 *人実施)

1	自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかったことはありますか。 ある*人 どちらかといえばある*人 どちらかといえばない*人 ない*人
2	1の設問で「ある」「どちらかといえばある」と答えた人に質問します。うまく伝わらなかった場面は、どんな場面ですか。(自由記述) ・合唱の練習でアドバイスをしたとき ・人の話を聞かない人に話したとき ・不信感を抱く人に話したとき ・違う考えの人に話したとき ・係活動のとき ・友達に相談したとき ・話すことがまとまっていなかったとき ・自分の語彙力が低かったとき ・発表や話し合いのとき ・相手に助言したとき
3	相手と関係が悪くなったことはありますか。 ある*人 どちらかといえばある*人 どちらかといえばない*人 ない*人
4	3の設問で「ある」「どちらかといえばある」と答えた人に質問します。関係が悪くなったとき、自分の考えや意見を相手に伝えるのは難しいと感じましたか。 - 感じた*人 - どちらかといえば感じた*人 - どちらかといえば感じなかった*人 - 感じなかった*人
5	3の設問で「ある」「どちらかといえばある」と答えた方に質問します。関係が悪くなったとき、相手を受け入れることができましたか。 - できた*人 - どちらかといえばできた*人 - どちらかといえばできなかった*人 - できなかった*人

実態調査から、約*割の本学級の学園生が自分の考えや気持ちが相手にうまく伝わらなかったという経験をしている。うまく伝わらなかった場面についての回答を見ても、多くの学園生が多様な関わり合いの中で自分の考えや気持ちが伝わらない経験をしていることが分かった。また、相手との関係が悪くなったときに、自分の考えや意見を相手に伝えるのは難しいと感じた学園生が多い一方で、相手を受け入れることができた実感している。このことから、相手の考えを理解することには前向きであるが、自分の考えや意見を相手に伝えることの難しさを感じている学園生が多いということも分かった。

(3) 指導観

- ① 筆者の見方や考え方と自分を対比・整理するために、黒板に構造的に示したり、分析的な発問をしたりする。
- ② 学園生の考えを深める手立ての一つとして、補助発問の内容を工夫し、話し合いに応じて適宜提示する。
- ③ 多様な感じ方や考え方が引き出されるために、手立て(表現カード、付箋紙、ICT機器など)や場(学習形態、座席の配置)を工夫する。表現カードについては、3色(黄色、橙色、青色)構成のものを活用し、「黄色は友達と同じ考え、橙色は友達と似た考え、青色は友達と違う考え」の共通理解に基づいて、ねらいに即した意図的指名をする際に効果的に活用する。
- ④ 人間としての生き方につながるように、発問や場の工夫をするなど自己を見つめて内省する場面を設ける。

4 本時の授業

(1) ねらい

相手の見方や考え方と自分とを比較する話し合い活動を通して、よりよい人間関係を築くために、広い視野に立って人間関係を築こうとする態度を育てる。

(2)展開

学習活動・発問 ◎中心発問 ○主な発問	予想される学園生の反応	指導上の留意点 評価
1 これまでの自分を見つめる。 アンケートの結果を見て、主題についての問題意識をもつ。 2 本時の課題を確認する。 よりよい人間関係を築くために、大切なことは何だろう。 3 教材「心にしみこむ“言葉”の力—池上 彰—」を読み、話し合う。 ○自分の気持ちを伝えるために、いつも心がけていることは何だろう。 ○池上さんは、なぜ、自分の気持ちを伝えるためには先に相手に話を聞くことが大切と言っているのだろう。 (補助発問) ・先に相手の話を聞くことは、相手の考えを取り入れることなのか。 ◎池上さんは、相手の話をよく聞くことは大切と言いながらも、プライベートでは自分の感情をもっと出していよと言っているが、それはなぜだろう。 ・付箋紙に自分の考えを書き、提示・整理しながらグループの友達と考えを共有する。 ・自分の考えを再構築する。 4 学習を振り返り、これからよりよい人間関係を築くためには、どのようにしたらよいだろう。	・相手に分かりやすく伝える。 ・感情的になり過ぎない。 ・相手は今どう思っているか、自分のことをどこまで理解しているかを知るため。 ・相手が知っていたり思っていたりすることが分かると、お互いの気持ちが通じ合えるから。 ・聞くことと受け入れることは違うと思う。話を聞いても、相手の考えを取り入れないときもある。 ・自分の感情を出さないと、我慢してしまうことになりそうだから。 ・お互いの本音を知ることで、人間関係が深まりそうだから。 ・相手の考えを尊重しながら自分の伝えたいことも我慢しないで丁寧に相手に伝えたい。 ・相手の考えを理解しようとすることを大切にして、自分の考えも分かりやすく伝えたい。	・アンケートの結果のうち、特に「自分の考えや気持ちがうまく伝わらなかった理由」に注目させ、「伝える」ことの難しさについて具体的に考えられるようにする。 ・自分の経験を振り返ることを通して、「先に相手の話を聞くことが大切」とする池上さんの考えに問題意識をもたせるようにする。 ・合唱祭の練習場面で自分の気持ちをうまく伝えられなかった例を取り上げ、相手の置かれている状況や気持ちの理解について問題意識をもたせる。 ・表現カードの色を基に、意図的指名をすることで生徒の多様な考え方や感じ方を引き出せるように工夫する。 ・「先に相手の話を聞くこと」の理解が十分でない場合、補助発問を工夫し、「聞くこと」は相手の考えを尊重することにつながるということに気付かせる。 ・自分の感情を出さないということは、人間関係にどう影響するのか、発展的に問いかけることで価値について整理する。 ・安心して自分の考えを発言できるように、学園生の考えを丁寧に受け止め、自由な思考を促すようにする。 ・Teams で考えを共有することで、自分の考えになかったものを受け入れて自分の考えに生かしたり、新しい見方や考え方を生み出したりするための機会とする。 よりよい人間関係を築くために大切なことについて、多面的・多角的な見方で考えている。 (Teams、発言)